

インマヌエル中目黒キリスト教会

2013年11月3日聖日礼拝

使徒の働き連講①⁹
「散らされる恵み」

使徒の働き8章 1-8節

竿代照夫 牧師



聖書朗読

新約聖書

使徒の働き8章 1 – 8 節

聖書本文は新改訳聖書第三版
(©新日本聖書刊行会) を使用しています。

第二版の聖書はp222~/ 第三版の聖書はp242~

- 1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。
- 2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のために非常に悲しんだ。
- 3 サウロは教会を荒らし、家々に入って、男も女も引きずり出し、次々に牢に入れた。
- 4 他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。

- 5 ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。
- 6 群衆はピリポの話聞き、その行っていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。
- 7 汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くし、多くの中風の者や足のなえた者は直ったからである。
- 8 それでその町に大きな喜びが起こった。

説教

使徒の働き連講①⑨ 「散らされる恵み」

使徒の働き8章 1～8節

竿代照夫 牧師



主テキスト

「散らされた人たちは、
みことばを宣べながら、巡り歩いた。」

(使徒8:4)

前回の復習: ステパノの輝かしい最期



1. エルサレム教会への迫害(1-2節)

- サウロの立場(1節a):「キリスト教は『危険』(！？)」
- 迫害の始まり(1節b-2節): 民衆を巻き込んだ反対運動
- 土着のユダヤ人(クリスチャン)は迫害の対象外
- ディアスポラ・ユダヤ人(クリスチャン)が追放される
- ステパノの葬り: 殉教者としての尊敬と感謝、権力者への無言の抗議

2. サウロの激しい行動(3節)

- ・ユダヤ教への熱心
- ・クリスチャンへの反感

(9:1、26:11、1テモテ1:13)

3. 散らされた人々の伝道(4節)

- ・危機をチャンスに変える信仰
(11:19-21)
- ・キリストの福音を伝える

4. ピリポのサマリヤ伝道(5-8節)

- ・ピリポとは
- ・名前は「馬を愛する人」
- ・ディアスポラ・ユダヤ人
- ・7人の執事の一人(6:3—5)

- ・サマリヤとは
 - ・パレスチナ中央の自治領(地図参照)
 - ・イスラエル王国分裂時の北側の首都
 - ・アッシリヤに滅ぼされ(BC8世紀後半)、
民族が混雑
 - ・バビロン捕囚から帰還したユダヤ人を妨害
 - ・ユダヤ=サマリヤの敵意を乗り越えた
主イエス(ヨハネ4章)
- ・ピリポの伝道: サマリヤ人のメシヤ待望
(ヨハネ4:25)を土台に福音伝達
- ・多くの人々の救いと喜び



おわりに

1. 災いを福と捉える信仰を持とう
2. あらゆる機会に福音を伝えよう